

子ども自立支援グループCAN (=Child Advocate Network) 設立趣意書

わたしたちは、子どもたちが十分な選択肢を与えられ、安心して失敗しながら成長していける社会を願って、この会を設立しました。

活動の目的

家庭や社会のサポートがなく、自立の機会から疎外されている10代から20代の子どもたちを対象に、生活・教育・就職などを支援し、その支援を通じて、子どもが自らの力を活かし、尊重されて生きていける地域社会作りに寄与されることを目的とします。

設立の趣旨

「自立」という言葉があります。子どもがおとなになるというのは、ひとりの人間として自立していく過程であるという点について異論はあまりないと思われます。けれどもひとは、社会の中で生きていく限り。実は必ず何らかのつながり＝ネットワークに支えられているものではないでしょうか。それは家庭であったり、友人関係であったり、職場や学校であったり地域であったりします。生まれたばかりの時には、その人間関係のつながりは自分で選ぶのではなく、言わば前提として存在していますが、成長とともに、自分を支え、あるいはまた自分が支える人間関係を自分で選び、自分で構築できるようになること、それが自立の重要な一側面であるとわたしたちは考えています。

けれども、何らかの理由でその前提的な人間関係のつながりを形成できなかった子どもたちがいます。わたしたちは、これまで子ども虐待の防止活動やその研究、貧困や社会政策の問題に関わるなかで、ネットワークを失ったまま社会に放り出される子どもたちと出会ってきました。特に社会的制度の隙間に落ちがちなのが、中学卒業年齢から20歳前後の子どもたちです。貧困や暴力にさらされていながら誰からの支えもなく孤立し、将来の可能性を狭められてしまっている子どもたちは、確実に存在しています。そうした子どもたちとの出会いを通じてわたしたちは、彼／彼女らに必要なのは、迷い、つまづいたときに一緒に考え、自分なりの選択を支えてくれる信頼できる誰か、彼らが失った人間関係を一時的に繕う臨時的セーフティネットではないか、と考えるようになりました。

子どもの現実的自立を支える社会制度が必要なのはもちろんですが、制度から疎外されがちな子どもたちが制度に出会い、活用して自分たちなりの人間関係を紡いでいけるように、橋渡しができればと考えてこの会を設立することを決意しました。

いまは限られた人数と、性格上収益のめどのない事業のため小規模な活動になると予想されますが、子どもたちと出会い、また子どもたちに必要な社会資源と出会うなかで、社会全体に多様な支援の輪ができてくれることを願っています。

2004年4月

CAN 発起人 長谷あゆみ（代表）、小松祐子、屋代通子、小西祐馬、佐々木みちる